

# 2016年度「復興デザイン・スタジオ」シラバス

## 首都直下の復興デザイン

夏学期 月曜 3-5 限 13:00-18:00

工学部 14 号館 222 番教室 担当：復興デザイン研究体

東京大学：窪田亜矢、本田利器、大月敏雄、羽藤英二、井本佐保里

復建調査設計：山根啓典、アジア航測：臼杵伸浩

ティーチング・アシスタント M2：社基-山本萌美、建築-千野優斗、都市-澁谷崇

### 1. 主旨説明

首都直下への関心が高まっている。東日本大震災を経て震災の恐怖と復興の困難さが現実的になってきたこと、科学技術の発達により地震の想定が高くなってきたことなどが背景にある。

内閣府中央防災会議でも 2015 年 12 月に首都直下地震対策検討ワーキンググループが対応策を報告している。東京都は「首都直下地震等対処要領」2014 年 4 月を発表している。

こうした動きはあるものの、首都が大地震に襲われたのは 1923 年関東大震災まで遡り、当時と現在とは物理的環境も、経済・社会的環境も全く異なっている。また都市型災害という点では 1995 年阪神淡路大震災を大いに参照にすべきだが、一都市か首都か、20 年前と現在、という大きな社会背景の違いもある。

どのような主体がどのような被害想定のもとで、どのような対応策を確保しているのか。それらを横断的に把握したときに問題はどこにあるのか？そうした理解をふまえたうえで、我々は何をすべきか、考察し、空間計画として提案する。

### 2. 復興デザイン・スタジオの進め方

本スタジオは建設系の大学院生を履修者として想定している。それぞれの分野を越えて、良く議論し一つの提案にまとめることで自分の専門領域の可能性と限界を考えてほしい。

前半は、調査やリサーチを中心とする。毎週、チームごとに発表して、全員で理解を深める。よって月曜午後以外に、チーム単位で議論を尽くしてほしい。「復興デザイン学」も関連づけている。

後半は、提案に主眼を置く。特に中間ジュリー以降は、チームごとにエスキース、提案内容を深める。

空間計画 Spatial Planning において、空間とは物理的な環境という意味のみならず、社会的な関係という側面も重要である。両者の複合物として空間を捉えたうえで、国難となるであろう未曾有の事態に対して、被災直後の緊急避難、仮設住宅や一時避難のあり方、産業復興、協働を可能にする体制、細やかな差異に対応できる制度などを論点として、多様なスケールを対象に、復興をデザインする。

本年度は、A コース（巨大水災害）の成果を参照しつつ、相互のやりとりを行う。

### 3. 成果イメージ

#### 1) 法制度や事業の構築

首都機能を抱え、経済活動が集中する巨大都市東京／首都圏としての理解

法制度（時限立法）や事業（区画整理事業や再開発事業だけではないはず）のレビューと提案

各主体（国際、省庁や自衛隊など国の機関、企業、東京都、自治体）の役割と連携

→アウトプット：首都直下に対応する法制度や事業の具体的提案とそれを支える理論の構築

#### 2) 地域に根付いた共同体ができることは何か？その空間計画

木密や湾岸（埋め立てや工業用地）など多様な地域を抱える東京／首都圏としての理解

復興のための空間計画の単位（地域特性に応じて 2 グループ想定）

地域の現状を、復興デザイン史＝これまでの地域社会が物的環境に働きかけてきた蓄積として捉える。

地域防災計画と実態との乖離、その対応

→アウトプット：当該地域 neighborhood の事前復興プラン（復興デザイン史と空間計画）

#### 4. スケジュール

日程	内容	備考：左記の日程後にやること
1. 4月11日 14:55-17:00 1号館15教室 ・□学	スタジオ内容概略説明 課題提示 ・ 首都直下地震対策WG冊子等読み込み ・ 各自の問題意識（自己紹介パワポ3枚） <b>国土交通省：竹之内優×廣井悠</b>	履修希望者メール受付 履修者決定
2. 4月18日 ・□学：佐藤滋先生	<b>自己紹介プレゼン</b> （5分ずつ） テーマ別にチーム分け（テーマ例）3チーム想定 例示として、公共施設と配置のデザイン、インフラ整備とマネジメントのデザイン、行政計画・防災計画のデザイン、避難所と仮設：被災から3ヶ月の生活支援、木密被災の日常的解消、産業復興、超絶繁華街の復興、帰宅困難者と医療資源の絶対的不足、0メートル地帯の漸次的改善など	前半は、資料（報告書や論文）の読み込みが中心。 TAからもテーマプレゼン
3. 4月25日	<b>13-14：加藤孝明先生レクチャー</b> （田島スタジオ成果の共有） チームごとに議論開始	議論をふまえて、さらに内容を深めて、調査続行
4. 5月2日	チームごとに議論	
5. 5月9日	<b>前半中間ジュリー</b> ：チームごとに発表 テーマに沿ってどのような主体がどのような被害想定と対応策をしているか？ 実態把握、その限界と課題	
6. 5月16日 ・□学：室崎益輝先生	チームごとに議論	
7. 5月23日 ・□学：永田智子先生	<b>前半ジュリー</b> ：被害想定の実態と対応策の限界	スタジオ終了後、冊子の一部となることを想定して作業 前半ジュリーの議論をふまえて各チーム修正
8. 5月30日 ・□学：目黒公郎先生	提案にむけて議論 各チームの提案を伝えるのに適切な媒体とは何か？	提案する内容に合わせて、模型、平面図、断面図、立面図、ダイアグラム、SNSなどを提示
9. 6月6日 ・□学：中林一樹先生	中間ジュリーに向けてエスキース：提案の骨子	
10. 6月13日 ・□学：中村尚史先生	<b>後半中間ジュリー</b> ：ピンナップレビュー 外部講評者予定（東京都、地域住民など） 提案チーム同士の共有事項整理 全体の基本的な姿勢検討議論	トレペなどでも構わないが、提案の内容の骨子は発表して、有益な議論とすること。
巨大水災害演習の現地踏査（沼津市戸田）に参加（6/18-19 予定）		
11. 6月20日 ・□学：中川善典先生	エスキース	
12. 6月27日 レポート提出	エスキース	プレゼンテーション準備も適宜開始する
13. 7月4日 ・□学：本田利器先生	エスキース	
14. 7月11日	<b>最終ジュリー</b>	提出は7月中をめどに報告書形式とする